

# 航空需要予測の高度化による 航空政策企画立案の支援



空港研究部 空港計画研究室 主任研究官 井上 岳 室長 小野 正博

(キーワード) 航空需要予測、格安航空会社(LCC)

2.

持続可能で活力ある国土・地域の形成と経済活性化

## 1. はじめに

日本再興戦略(平成25年6月14日閣議決定)において、首都圏空港の機能強化は、立地競争力の更なる強化のための施策として位置づけられている。首都圏空港の更なる機能強化に向けた技術的な検討の基礎とするため、国土交通本省航空局は、交通政策審議会航空分科会基本政策部会(平成25年9月26日)において最新の航空需要予測値を公表した。当該予測に用いた予測モデルは、従前より国総研空港研究部で構築・改善してきたものである。また、その適用に際して本省に対し技術的助言を行った。

本稿では、予測のポイント(結果の概要、モデルの技術的改善点及び今後の展望)について記載する。

## 2. 予測のポイント

### (1) 予測結果の概要

今後5年毎の将来航空需要予測を実施した(2017年度、2022年度、2027年度(参考)及び2032年度(参考))。予測モデルは、四段階推計法を基礎としている。我が国のGDPが予測結果に与える影響が大きいことから、将来的な経済成長の幅を考慮し、上位、中位及び下位の3ケースによる予測を行った。

その結果、首都圏空港の航空旅客需要全体は、2022年度には1.1億人～1.3億人、発着回数は69～76万回となり、首都圏空港の発着回数は、上位・中位ケースでは2022年度、下位ケースでは2027年度に発着枠を超過する見込みとなった。

### (2) 予測モデルの技術的改善点

LCCによる需要増加効果は、①段階的にLCC参入シェアが増加、②その結果航空運賃が低下、③運賃低減効果により航空需要が増加するものとして予測モデルに反映している。また、観光政策による航空

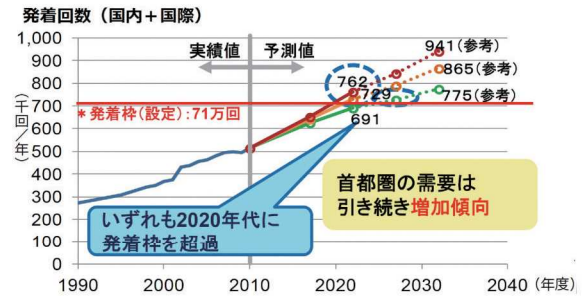


図 首都圏の航空需要予測(発着回数)

旅客数への効果を分析すると一定の効果が認められたため、査証免除・発給要件緩和に関する実績等の政策効果を見込んだ。将来においても、政策による需要増加効果が持続すると想定した。

### (3) 今後の展望

#### ①国内航空需要

整備新幹線やリニア中央新幹線開通、あるいは、羽田空港発着国内線LCCなど、新たな交通サービスが実現した場合における転換需要を精緻に推計するため、交通機関・経路選択モデルの改善を進めている。具体的には、航空利用者に対する詳細なアンケート調査を実施することにより、交通機関・経路選択に関する知見を更に蓄積するとともに、潜在的なLCC利用者等に対する選好表明型調査(SP調査)に基づき、転換需要を試算しているところである。

#### ②国際航空需要

アジアにおけるLCC市場の更なる進展、2020年東京五輪開催やTPP参加による貿易拡大により増加すると見込まれる需要を精緻に推計するため、国際航空市場動向の分析を更に進め、予測モデル改善に取り入れていく。

【資料】交通政策審議会航空分科会基本政策部会 第1回 首都圏空港機能強化技術検討小委員会 資料5 首都圏空港の機能強化に係る検討について

<http://www.mlit.go.jp/common/001018977.pdf>